

日語複合動詞 “Uetukeru” 之語義和共存表現

馮寶珠

輔仁大學日本語文學系副教授

摘 要

本論文使用日本國立國語研究所語料庫用例，分析日語複合動詞 “Uetukeru” 句的語義和共存表現。本稿分析日語複合動詞 “Uetukeru” 句，結果如下：

- 一、日語複合動詞 “Uetukeru” 句有 2 個語義。
- 二、日語複合動詞 “Uetukeru” 句的前項動詞和後項動詞之受詞是相同的。
- 三、日語複合動詞 “Uetukeru” 句為「動詞+動詞」型之複合動詞，前項動詞為及物動詞、後項動詞為及物動詞，複合動詞為及物動詞。
- 四、日語 “Uetukeru” 複合動詞句使用 “wo” 格助詞時，表示「主體在某處所種植某事物」，出現的名詞為「1.5 自然物體和現象」的「自然、植物」。此外，表示「主體將思想、印象深刻人心」，出現的名詞為「1.3 人類活動—精神和行為」的「活動」。

關鍵詞：複合動詞、語料庫、語義、共存表現

複合動詞「植え付ける」の語義と共起表現

馮寶珠

輔仁大学日本語文学科副教授

要 旨

本稿は日本語の複合動詞「植え付ける」を考察の対象として、主に国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(『BCCWJ』)を利用して、「植え付ける」の語義と共起表現を考察する。その考察結果は次のようにまとめられる。

- ① 複合動詞「植え付ける」には2つの語義がある。
- ② 「植え付ける」の前項動詞の対象と後項動詞の対象が同一である。
- ③ 「植え付ける」は「動詞＋動詞」型の複合動詞で、「他動詞＋他動詞」から構成され「他動詞」として働く。
- ④ 日本語の複合動詞「植え付ける」の意味特徴は「ヲ格」を伴う場合、「ある場所にモノを植える」を表し、共起する名詞は「1.5 自然物及び自然現象」の「自然、植物」である。また、「主体が思想・印象などを人の心に刻みつける」を表し、共起する名詞は「1.3 人間活動-精神及び行為」の「活動」である。

キーワード：複合動詞、コーパス、語義、共起表現

The semantics and co-occurrence expression of Japanese compound verb "Uetukeru"

Ferng, Bow-Ju

Associate Professor, Fu Jen Catholic University, Department of Japanese Language and Culture, Taiwan

Abstract

This study examines the semantics and co-occurrence expression of the Japanese compound verb "Uetukeru" by the 『BCCWJ』 corpus of the Japanese National Language Institute. The conclusion is as following:

1) The Japanese compound verb "Uetukeru" has two semantics. The objects that appear in the pre-verb and the post verb are identical. 2)The semantic 2 has strong co-occurrence restriction than semantic 1. 3)The Japanese compound verb "Uetukeru" is a "verb + verb" type and consists of "transitive verb + transitive verb" and works as "transitive verb". 4) The "Uetukeru" compound verb using the "wo" auxiliary word means "planting something in a place ",and co-occurring nouns are " nature, plant" of " 1.5 Natural objects and natural phenomena". In addition, it represents " the subject inscribes thoughts and impressions into the human mind ",and co-occurring nouns are "activities" of "1.3 Human activities spirits and acts".

Keywords: compound verb, corpus, semantics, co-occurrence expression,

複合動詞「植え付ける」の語義と共起表現

馮寶珠

輔仁大学日本語文学科准教授

1. はじめに

村田（2016）は国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を用いて、自然科学会、社会科学会、文学というジャンル別に 22 後項動詞を含む複合動詞の各使用頻度（使用頻度 30 回以上）を調べた結果、その異なり語数の前 10 位の複合動詞が「～付ける（1028 例）、～合う（976 例）、～かける（689 例）、～こむ（607 例）、～きる（543 例）、～なおす（446 例）、～あげる（394 例）、～つける（324 例）、～かかる（230 例）、～まくる（212 例）」であり、「～付ける」複合動詞が前 1 位であることを指摘している。

また、本稿 2.2 節で後に述べるが、辞典・辞書類を用いて複合動詞「～つける」を調べてみると、「植え付ける」は「植える」と「つける」を構成要素とする複合動詞であり、「植え付ける」には「彼がキャベツの苗を植え付ける」（語義 1）と、「公德心を国民に植えつける（人の心に刻みつける）」（語義 2）という 2 つの語義がある。

本稿 2.3 節で後に述べるが、これまで複合動詞に関する研究は主に語構成（項構造、アスペクトなど）、歴史的変化、対照研究などを焦点に考察してきたものが多く見られた。しかし、「植え付ける」などのような多義複合動詞を対象にして、その意味・用法（特に共起表現）に関して研究するものがそれほど多くないように思われる。日本語母語話者にとっては複合動詞の多義性はそれほど大きな問題ではないかもしれない。しかし、初級の台湾人日本語学習者はもちろん、中級や上級の日本語学習者にとっても、使いやすい文法項目とはいえない。

また、筆者が『台湾多国語学習者コーパス』サイト¹にある作文、

¹ 『台湾多国語学習者コーパス』は 2008 年度から台湾の成功大学で開発した中

レポートや日本語論文要旨などのデータを調べた結果、「公德心を植え付ける」が他の「～付ける」「見付ける」などに比べて使いにくい文法項目の一つとなっているため、その用法を探りたい。そして、「植え付ける」の意味特徴を明らかにすることで複合動詞の理解の向上に役立てたい。そこで本稿では、複合動詞「植え付ける」の用法・意味特徴を考察することとする。

本稿の構成は以下のとおりである。第2節では、先行研究に見る問題点と本稿の目的を述べる。第3節では、本稿の分析観点を述べる。第4節では『BCCWJ』における使用実態を考察する。5節では「植え付ける」の特徴を分析する。6節では本稿のまとめと指導への提言を述べる。最後に今後の研究課題を述べる。

2. 先行研究に見る問題点と本稿の目的

2.1 多義語

多義語とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つ2つ以上の意味が結びついている語を言う(国広 1982)。語の意味が拡張、あるいは変化して定着し、元の意味と共存すると多義語となる(靱山 2003)。そして、国広(2006: 12-25)は、語の現象素を区別の中心として、現象素による多義派生の型とそれに基づかない場合という二つの領域に分類し、多義語を分析している。

本稿では靱山(2003: 107)、靱山・深田(2003: 142)、松本(2003)の論点を踏まえ、以下のような要件を満たしている語義を基本語義²と認定する。

基本語義(語義1)は、「複数の意味の中で最も基本的なもののことであり、基本的であるということは、最も確立されていて、中立

国語、日本語、ドイツ語、スペイン語の学習者の書いた文書(作文、レポート、論文要旨など)を集める学習者コーパスである。

² 本稿では、先行研究でいう語義を「語義」と呼び、「基本義」を「基本語義」または「語義1」と呼ぶ。また、先行研究でいう「拡張語義」を「拡張語義」または「語義2」と呼ぶ。

的なコンテキストの中で最も想起されやすいといった特徴を有する語義」と呼ぶ。

こうした点を踏まえ、本稿は、複合動詞「植え付ける」を語義と共起表現の観点から考察する。

2.2 共起表現

山田（2007）によれば、コロケーション（以下、共起表現）とは、名詞と動詞、形容（動）詞と名詞、副詞と動詞など、原則として異なる品詞に属する語が結びついた表現であるという。また、曹紅・仁科（2006）、三好（2011）によれば、共起表現とは、一文中において統語的な関係がある語と語の結びつきのことであるという。

共起表現には研究と教育という2つの役割がある。まず、研究の観点から言えば、語の意味の記述は言語研究において大きな課題である。しかし、語の意味は抽象的なもので、語の意味を記述するために観察可能な共起表現を利用し、分析するのに有効な手段である³と言える。

一方、日本語教育の観点から言えば、複合動詞を指導する際に、意味の説明が必要であるが、直感のない台湾人日本語学習者にとって抽象的な意味を理解することが難しい。複合動詞の統語的・意味的特徴に加えて、その共起表現に関する説明があれば、複合動詞の理解が深まり、正しい文の産出につながると考えられる⁴。このように、複合動詞の意味分析のためにも、日本語教育の現場指導のためにも、複合動詞と共起する表現を記述することが重要である。

2.3 複合動詞

影山（2013）は、影山（1993）で提唱された語彙的複合動詞の前

³共起表現と意味分析に関しては、詳しくは田野村（2010）、姚新宇・菅谷奈津恵（2017）などを参照。

⁴共起表現と日本語教育に関しては、詳しくは三好（2011）、砂川（2011）などを参照。

項動詞（V1）が後項動詞（V2）の意味関係による分類を、「V1 て、V2」と言い換えが可能かどうかという基準をもとに「主題関係複合動詞」（語彙的複合動詞）と「アスペクト複合動詞」（統語的複合動詞）の2つタイプに分類する。本稿で考察する「植え付ける」は影山（2013）の「主題関係複合動詞」（語彙的複合動詞）に当たるものである。

また、日本語の複合動詞では、主に以下に示す5つの方向で理論的・記述的研究が国内外で発表されてきた。

- ①複合動詞の語構成（項構造、格関係、アスペクトなど）：影山（1993）、由本（2005）、影山（2013）、長谷部（2013）など
- ②複合動詞の歴史（歴史的変化）：青木（2012）、青木（2013）、阿部（2013）など
- ③複合動詞の対照研究（日中対照研究、日韓対照研究など）：申亜敏ら（2009）、沈力（2013）など
- ④複合動詞の習得研究：松田（2004）、玉岡（2010）など
- ⑤複合動詞の認知意味論（スキーマ、コア図式）：松本（2003）など

しかし、上記の①～④の先行研究では、複合動詞の多義性については説明されていない。また、上記の⑤の先行研究では、認知意味論のコア図式を用いて多義語の意味構造についての記述はあるが、複合動詞の共起表現についての記述はない。そこで、本稿では、複合動詞「植え付ける」の多義性と用法（共起表現）を考察することにより、複合動詞研究への位置づけや複合動詞の理解向上に役立てたい。

2.4 「～つける」の先行研究と問題提起

姫野（1999）は、「～つける」の意味について、次のように分類する。

（一）接着・密着（「に」をとるもの）

- ① 場所への到着。（駆けつける、乗り付けるなど）

- ② 対象への接着・密着。(打ちつける、結びつけるなど)
 - ③ 対象への指向 (完全な接触を目指す)
 - ③-1 物理的接触。(投げつけるなど)
 - ③-2 対人行為接触。(言いつける、買いつけるなど)
 - ③-3 主体者接触。(呼びつけるなど)
 - ④ 対象への強度の接触指向。(照りつけるなど)
- (二) 接着・密着 (「に」をとらないもの)
- ① 強調 (動作を強調し、その動作がいい加減ではなく、完全に行われる)
 - ①-1 物理的接触。(踏みつける、抑えつけるなど)
 - ①-2 対人行為接触。(怒りつける、おどしつけるなど)
 - ② 対象の捕捉。(嗅ぎつける、聞きつけるなど)
 - ③ 状態移行 (燃やしつける、たきつけるなど)
 - ④ その他。(決めつける、落ちつけるなど)
- (三) 習慣 (使いつける、飲みつけるなど)

姫野 (1999) は「～つける」を大きく内部移動と程度進行に分類し、内部移動を表す表現は「移動先の領域が有する形態の特徴」によって「閉じた空間、固体、流動体、間隙のある集合体または組織体、動く取り囲み体、自己の内部、その他」の7つに分けられるとしている。一方、程度進行を表す表現は「前項動詞の意味特徴」によって「固着化、濃密化、累積化」の3つに分けられるとしている。つまり、姫野は「～つける」の用法の分類 (内部移動と程度進行) に重点を置いている。しかし、姫野 (1999) の分類の問題点として、「～付ける」の前に現れる名詞句と、副詞との共起関係を十分明らかにしたとは言えない。

また、手段を表す複合動詞には例 (1) の「騙し取る」や例 (2) の「植え付ける」などがある。

- (1) 彼が (花子の) 金を騙し取る。

例（１）の「騙し取る」は、「守衛が花子を騙すという手段で（花子から）お金を取る」という意味を表す。前項動詞（騙す）の対象（花子）と後項動詞（取る）の対象（お金）が同一ではない。

（２）彼がキャベツの苗を野菜畑に植え付ける。

例（２）の「植え付ける」は、「彼がキャベツの苗を植えるという手段でキャベツの苗を野菜畑に付ける（埋める）」という意味を表し、姫野（１９９９）の「対象への接着・密着」に相当するものである。そして、キャベツの苗を野菜畑の外側→中側へと移し現れるようにするという意味も表す。

例（２）の「植え付ける」は、前項動詞（植える）の対象（キャベツの苗）と後項動詞（付ける）の対象（キャベツの苗）が同一である。

しかし、先行研究には次のような問題がある。まず、上記の先行研究では「植え付ける」の前項動詞（植える）の対象と後項動詞（付ける）の対象（キャベツの苗）については説明されていない。

例（２）のように、本稿の「植え付ける」は、前項動詞（植える）の対象（キャベツの苗）と後項動詞（付ける）の対象（キャベツの苗）が同一で、前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化（野菜畑に）を表す動詞である。

次に、「植え付ける」には １）「主体（彼）が植えてある対象（キャベツの苗）を場所に付ける（埋める）」（語義 １）、２）「公德心を国民に植えつける」のように「思想・印象などを人の心に刻みつける」（語義 ２）という ２ つの語義がある。しかし、先行研究では「植え付ける」の語義 １ と語義 ２ の共起表現についての記述はない。

また、社会科学では広く使われている事例研究、質的研究などの方法を参照に、「植え付ける」という多義複合動詞（一語の研究）を考察することにより、新しい可能性（指導する際により具体的な用

法や提言など)を提案することで、研究意義があると思われる。

そこで、本稿では「植え付ける」の用例を調査するために、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』⁵(以下、『BCCWJ』)を利用した。『BCCWJ』の用例に照らしながら、『広辞苑(第七版)』、『大辞林(第三版)』、『デジタル大辞泉』を用いて複合動詞「植え付ける」を調べてみると、「植え付ける」は「植える」と「付ける」を構成要素とする複合動詞である。「彼がキャベツの苗を野菜畑に植え付ける」のように「主体(彼)が植えてある対象(キャベツの苗)を場所に付ける(埋める)」(語義1)のほかに、「公德心を国民に植えつける」のように「対象(思想・印象など)を場所(人の心)に付ける(刻みつける)」(語義2)を持つ複合動詞でもある。

日本語学習者にとって難しいというのは、上記の2つの語義の用法を理解することである。本稿では、前述のような問題を解決するために、「植え付ける」の2つの語義と用法を分析する。

3. 分析視点

「植え付ける」と共起する「ヲ格名詞(目的語)」や副詞的成分を調べるのは、共起関係を通じて「植え付ける」の意味を明らかにするのが目的である。本稿では、「植え付ける」の用法を明らかにするために、次の2点に注目する必要があると考えている。

(一)「植え付ける」がどのような名詞と共起しやすいのか⁶。

(二)「植え付ける」がどのような副詞と共起しやすいのか。

上記の2点に注目する理由は次の通りである。前述のように「植え付ける」に2つの語義があるが、語義を判断する基準を明示する必要があり、各語義の特徴の解明に役立つと思われる。

⁵ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』は国立国語研究所で開発されたコーパスを検索することができるWebアプリケーションである。

⁶ 曹紅・仁科(2006)、三好(2011)によれば、共起表現とは、一文中において統語的な関係がある語と語の結びつきのことであるという。本書でいう共起関係を「コロケーション」、「連語」、「結合関係」、「共起表現」と呼ぶ学者もいる。

そこで、本稿は『BCCWJ』から「植え付ける」の用例⁷を抽出して、「植え付ける」の前項動詞（植える）と後項動詞（付ける）との関わりを考察する対象にしたい。本稿は「植え付ける」の前に現れる「ヲ格名詞（目的語）」との共起関係（以下、共起名詞、共起する名詞）、「{また・しっかり…} 植え付ける」のように副詞を使って「ヲ格名詞」との共起関係（以下、共起副詞、共起する副詞）⁸、その意味用法を明らかにすることを目的とする。

本稿では、国立国語研究所（2004）『分類語彙表増補改訂版』における認知領域の分類表で「植え付ける」の共起名詞を考察し分析する。

また、本稿では仁田（2002）の分類に基づき、副詞を使った文の修飾関係を副詞的成分といい、副詞的成分を以下に示す5つに分類する。

（1）結果の副詞的成分（以下、結果副詞的成分）

動きが実現した結果の主体 や対象の状態のありようについて言及したものである。例えば、「飴色に濁る」、「かちんかちんに凍る」など。

（2）様態の副詞的成分（以下、様態副詞的成分）

動きの展開の局面に内蔵する側面のありようを取り上げるものである。例えば、「はげしくゆさぶる」、「ぺこんとおじきをする」など。

（3）程度量の副詞的成分（以下、程度量副詞的成分）

事態の度合いに言及することによって、事態の実現のされ

⁷本稿では、「植え付ける」に現れる「ヲ格名詞」と副詞との共起関係を考察するため、中納言の「植え付ける」の連用形、終止形、連体形の用例（449例）を選出した。

⁸ 本稿では副詞的成分がどんな「ヲ格名詞」と共起するかを考察するのが目的である。そこで、「ヲ格名詞」と共起しない副詞、陳述副詞（「きっと」など）、形容詞や形容動詞の連用形「{形容詞く・形容動詞に}」以外の副詞（例えば、「元気で」など）の用例を本稿の考察対象としないため、手作業でその用例を除外した。

方を限定し特徴づけている。

① 程度の副詞的成分（以下、程度副詞的成分）

事態の度合いに言及することによって、事態の実現のされ方を限定し特徴づけている。例えば、「ひどく慌てる」など。

② 量の副詞的成分（以下、量副詞的成分）

主体や対象の量的規定を限定し特徴づけている。例えば、「たっぷり運ぶ」など。

(4) 時間関係の副詞的成分（以下、時間副詞的成分）

事態の内的な時間的特性に言及することによって、事態の実現のされ方を限定し特徴づけたものである。例えば、「しばらく瘦せた」、「すぐ気がついた」など。

(5) 頻度の副詞的成分（以下、頻度副詞的成分）

事態生起の回数的なあり方から、事態に対して事態の成立のありようや成立状況を付加し特徴づけたものである。例えば、「週末はいつも公園を散歩している」、「しばしば遊びに出る」など。

本稿では、「植え付ける」がどのような副詞と共起するのかを考察する。つまり、本稿では考察する共起副詞は結果副詞的成分、様態副詞的成分、程度量副詞的成分、時間副詞的成分、頻度副詞的成分である。

4. 『BCCWJ』における使用状態

本節では、「植え付ける」の語義1、語義2の使用実態を考察する。前述のように「植え付ける」の特徴を分析するために、共起名詞や共起副詞を考察することが有効である。本稿は『BCCWJ』から「植え付ける」の共起名詞や共起副詞を調査した。

調査の結果は次の通りである。表1は、『BCCWJ』における語義1と語義2の共起名詞である。

表 1 「植え付ける」の語義と共起名詞

語義	格助詞	分類語彙表	割合	共起名詞
語義 1	ヲ格	1. 1 抽象的關係	5. 77%	種、根など
	ヲ格	1. 3 人間活動-精神及び行為	4. 81%	根鉢、鉢植え、種まきなど
	ヲ格	1. 4 生産物及び道具	7. 69%	作物、もの、花、野菜、果物、ビオラなど
	ヲ格	1. 5 自然物及び自然現象	29. 81%	苗、菌、植物、稲、苗木、ばら、ぶどう、きゅうり、球根など
語義 2	ヲ格	1. 1 抽象的關係	11. 54%	存在、機会、不信の根など
	ヲ格	1. 3 人間活動-精神及び行為	39. 42%	意識、イメージ、印象、心構え、恐怖、自信、感情、連帯感、アイディア、先入観、思想、忠誠心、精神、魂、感覚、怒り、不安、好意、愛国心、憎悪、優越感、記憶、考え、認識、概念、技術、理念
	ヲ格	1. 4 生産物及び道具	0. 96%	日本像など

表 1 から次の結果が得られる。「植え付ける」の共起名詞の出現件数順に「1. 3 人間活動-精神及び行為」(50%) > 「1. 1 抽象的關係」(22. 56%) > 「1. 5 自然物及び自然現象」(21. 80%) > 「1. 4 生産物及び道具」(5. 64%) > 「1. 2 人類活動的主体」(0) である。そして、語義 2 の「1. 3 人間活動-精神及び行為」(45. 49%) が一番多く、語義 1 の「1. 5 自然物及び自然現象」(21. 80%) が二番目に多い。語義 1 は語義 2 と比べるとやや少ないことが確認できる。特に語義 2 の「1. 4 生産物及び道具」(0. 38%) が一番少なく、語義 1 の「1. 3 人間活動-精神及び行為」(4. 51%) が二番目に少ない。ここから、複合動詞「植え付ける」の中で語義 1 は意味範疇が最も広いと言え

る。一方、語義 2 は語義 1 と比べると使用上の制約がやや多いことを推測できる。

また、複合動詞「植え付ける」の前 10 位の出現件数順⁹は、「意識 (20.95%)、苗 (19.25%)、イメージ (12.09%)、印象 (10.90%)、恐怖 (8.53%)、菌 (8.53%)、種 (5.97%)、植物 (5.45%)、自信 (4.59%)、感情 (3.74%)」であり、「心、植物」に関する名詞が多いことが確認できる。

次に、語義 1「主体がモノを植えて場所に付ける」の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」を除き、特にその制限がないように思われる。それは、植えるものは具体的なモノ（根鉢、作物、苗など）であり、「1.2 人類活動的主体」の「人間」ではないことに起因するからだろう。語義 2「主体が思想・印象などを人の心に強く刻みつける」の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」と「自然物及び自然現象」を除き、とくにその制限がないように思われる。それは、刻みつけるものは主に人間精神及び行為に関わるモノ（意識、イメージ、不信の根など）であり、語義 1 と同様に「1.2 人類活動的主体」の「人間」ではないことに起因するからだろう。

共起副詞の前後に来る名詞を考察することにより、副詞と名詞との共起関係を明らかにすることを目的とする。表 2 は、『BCCWJ』における「{語義 1/語義 2/共起副詞} + 植え付ける」の共起副詞の前後に来る名詞をまとめたものである。斜線の左側の数字は当の副詞の出件数で、右側の数字は共起副詞の総件数である¹⁰。

表 2 「植え付ける」の語義と共起副詞の前後に来る名詞

語義 1	すぐ	3/16	しめじの菌 1/16、苗 1/16、レンコン 1/16
------	----	------	-----------------------------

⁹ () は複合動詞「植え付ける」の前 10 位共起名詞の出現件数が出現総件数の割合を示す。

¹⁰ 共起選出した『BCCWJ』用例の副詞が少ないため、「国立国語研究の NBL 検索システム」を利用し、手作業で「植え付ける」の副詞と共起副詞の前後に来る名詞を選出した。

	丁寧に	3/16	花 1/16、苗 1/16、種イモ 1/16
	しっかり	1/16	DNA 1/16
	7/16 (43.75%)		
語義 2	しっかり	2/16	印象 1/16、技術 1/16
	また	1/16	思考の種 1/16
	早急に	1/16	こと 1/16
	強く	1/16	印象 1/16
	ひそかに	1/16	競争心 1/16
	熱心に	1/16	精神 1/16
	徹底的に	1/16	理念 1/16、印象 1/16
	効率的に	1/16	世界観 1/16
	9/16 (56.25%)		

表 2 の共起副詞を見ると、語義 1 は、様態副詞的成分と、時間副詞的成分と共起する。一方、語義 2 は、様態副詞的成分と、頻度副詞的成分、時間副詞的成分と共起する。

次に、共起副詞の直後に来る名詞は思想・印象（理念、世界観など）または植物（苗、菊の花など）を表す名詞が多いことが確認できる。それは、刻みつけるものは主に人間活動に関わるモノ（「1.3 人間活動-精神及び行為」の「理念、世界観」など）であることに起因するからだろう。そして、植えるものは具体的なモノ（「1.5 自然物及び自然現象」の「苗、菊の花」など）であることに起因するからだろう。

なお、先行研究では記述されていないが、「植え付ける」の語義 1、語義 2 はいずれも V V 型（動詞＋動詞）の複合動詞を表す用法がある。本稿で挙げた用例に関しては下線を引いたものは複合動詞または副詞的成分を示す。

(3) そんな仕事のプレッシャーが高まっていた 9 月中旬、二年

にわたってボランティアで育てて来たユーカリの苗をやつと植林地に植え付けることができ、肩の荷がひとつ下りました。(語義 1、Yahoo!ブログ、2005)

- (4) 年はそうしたちょっとした変化を感じていた。それはしかし、純朴な彼の心に嫉妬の芽を植えつけることになった。東京に行ったくらいで、くわえ方が変わるはずがない。(語義 2、神崎京介『週刊現代』、1950)

例 (3) と例 (4) では、「植え付ける」は V V 型 (動詞 + 動詞) の複合動詞で、「他動詞 + 他動詞」から構成され「他動詞」として働く。また、「植え付ける」には、「主体 (人間) が植えて対象 (ユーカリの苗) を場所 (植林地) に付ける (埋める)」(語義 1) と、「対象 (思想・印象など、即ち、嫉妬の芽) を場所 (彼の心) に付ける (刻みつける)」(語義 2) がある。つまり、「植え付ける」は「主体が対象を植えるという手段で、対象を場所に付ける (埋める / 刻みつける)」(対象の位置変化移動) という意味を表す。

以上、『BCCWJ』における語義 1、語義 2 の使用状況を考察した。上記の考察結果をまとめてみると次の結果が得られた。

- (一) 語義 1 の範疇が最も広い。一方、語義 1 と比べると、語義 2 は使用上の制約がやや多いことを推測できる。
- (二) 語義 1 は、様態副詞的成分と、量副詞的成分と、時間副詞的成分と共起する。一方、語義 2 は、様態副詞的成分と、頻度副詞的成分と共起する。
- (三) 「植え付ける」は V V 型 (動詞 + 動詞) の複合動詞で、「他動詞 + 他動詞」から構成され「他動詞」として働く。また、「植え付ける」は「主体が対象を植えるという手段で、対象を場所に付ける (埋める / 刻みつける)」(対象の位置変化移動) という意味を表す。

次節から、本節で考察した結果を踏まえて、語義 1、語義 2 の特徴を考察する。

5. 「植え付ける」の用法

5.1 語義 1 の用法

本節では、語義 1 は 2 つの用法があることを次に示す。まず、先行研究の指摘のように、語義 1 の前項動詞（植える）の対象と後項動詞（付ける）の対象が同一である用法と、前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化を表す動詞である用法がある。

- (5) 地中の力と宇宙の力が出合う土壤にブドウを植えつける、とき、この合流点はぼくを魅了する。（藤野邦夫訳『メドック至高のワインづくり』、1999）
- (6) 鉢植えを庭に植えつける場合は、西日の当たらない半日陰の場所を選びます。水はけのよい傾斜地も適しています。（倉重祐二『趣味の園芸』、2002）
- (7) まず、造園業者による植え方の説明があり、園児・保護者・職員・来賓がそろって芝生を園庭に植え付けます。（Yahoo! ブログ、2005）

例（5）-例（7）の語義 1 では、「植え付ける」の前項動詞（植える）の対象と後項動詞（付ける）の対象（「ブドウ」、「鉢植え」、「芝生」）が同一であることを表す。また、前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化（「土壤に」、「庭に」、「園庭に」）を表す動詞であることを表す。

〈特徴 1〉

語義 1 の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」を除き、特にその制限が見られないように思われる。例（8）-例（10）の語義 1 のように、「1.5 自然物及び自然現象」を用いる共起名詞（29.81%）が二番目に多く使われる。

- (8) ライフスタイルに合わせて、早朝か夕方に水やり 3 用土の水はけをよくする植物を植えつける際に、赤玉土などは硬質で粒のしっかりしたものを使いましょう。(星野洋一郎『趣味の園芸』、2005)
- (9) まず乾いた土を落とし、古い根を少し残して切ります。球根を植えつける際は、用土に軽くのせるようにします。(星野洋一郎『趣味の園芸』、2005)
- (10) 自信がなければ市販苗を使ったほうが無難です。畑の準備をする元肥はたっぷりと苗を植えつける 2 週間前に苦土石灰を散布して耕する。(荒木雅彦監修『はじめての野菜づくり』、2000)

例 (8) - 例 (10) の語義 1 では「植物、球根、苗」は「1.5 自然物及び自然現象」の「自然、植物」で、植える「動作対象+ヲ」が明記されている。

例 (11) - 例 (13) の語義 1 のように、「1.1 抽象的關係」を用いる共起名詞 (5.77%) が二番目に少なく使われる。

- (11) それなりに仲は近くなっていると思います。そこで、次は相手に自分の「存在」というのを植えつける、つまり忘れさせないようにするといいかと思います。(Yahoo! ブログ、2005)
- (12) 年はそうしたちょっとした変化を感じていた。それはしかし、純朴な彼の心に嫉妬の芽を植えつけることになった。東京に行ったくらいで、くわえ方が変わるはずがない。(神崎京介『週刊現代』、1950、例 (4) 再掲)
- (13) どんなに寛大な夫でも厳しく追及するであろう。夫婦の間に不信の根を植えつける。やはり理論的には可能であっても、事実上は不可能である。(森村誠一『マリッジ』、2005)

例（11）-例（13）の語義 1 では、「自分の存在、嫉妬の芽、不信の根」は「1.1 抽象的關係」の「関係、事柄、作用」で、「植え付ける」場所（「相手」、「彼の心に」、「夫婦の間」）は「人間の心」という抽象的な空間を表し、比喩表現として語義 2 の用法に近づいていく。

〈特徴 2〉

先行研究では記述されていないが、語義 1 の共起副詞は、様態副詞的成分と、時間副詞的成分である。つまり、語義 1 は、様態副詞的成分と、時間副詞的成分と共起する。例えば、例（14）-例（16）の語義 1 では、それぞれ「しっかり」「丁寧に」の様態副詞的成分、「すぐ」の時間副詞的成分と共起することを表す。

- （14）カリスマ性のあるリーダーがやってきて、一時的にその会社の業績を回復させても、しっかり DNA を植え付ける地道な仕事できていない場合には、リーダーが交代すれば再び業績は悪化してしまうであろう。（Yahoo!ブログ、2002）
- （15）町内の保育所の子供たちが「元気に育ってね」と思いを込め、種イモなどを丁寧に植え付けた。（Yahoo!ブログ、2003）
- （16）『ふりふり石灰』は有機石灰と苦土石灰を混合した石灰なので、効き目が穏やかで、施してすぐに苗を植え付けることができます。（Yahoo!ブログ、2005）

例（14）-例（16）の語義 1 では、共起副詞の前後に来る名詞は「DNA、種イモ、苗」で、「自然」を表す名詞であることが確認できる。例（14）では、「しっかり DNA を植え付ける」という行為の力の接触に勢い・強さを表す。例（15）では、「種イモなどを丁寧に植え付けた」という行為の展開に伴って生じる動きのあり様を表す。例（16）では、「施してすぐに苗を植え付ける」という行為が生じるまでの時間量、動きのへの取り掛かりまでの所要時間がわずかであることを表す。

以上、語義 1 の特徴を考察した。本節の考察をまとめると、次のようになる。

- (一) 語義 1 の前項動詞（植える）の対象と後項動詞（付ける）の対象が同一である用法と、前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化を表す動詞である用法がある。
- (二) 語義 1 の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」を除き、特にその制限が見られない。つまり、語義 1 は、意味範疇が最も広いと言える。
- (三) 語義 1 は、様態副詞的成分と、時間副詞的成分と共起する。

5.2 語義 2 の用法

本節では、語義 2 は 2 つの用法があることを次に示す。まず、語義 1 と同じく、語義 2 の前項動詞（植える）の対象と後項動詞（付ける）の対象が同一である用法と、前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化を表す動詞である用法がある。

- (17) 第二に、児童生徒には学校から強制されているという感情を植えつける傾向が大きいということであります。(竹村泰子君『国会会議録』、1999)
- (18) 首相個人の恣意によって、司直が発動されるのだ、という印象を国民に植えつける、許されざる罪悪行為と言わざるを得ない。(遠山景久『台湾を独立させよう』、2005)

例 (17) と例 (18) の語義 2 では、「植え付ける」の前項動詞（植える）の対象（「感情、印象」）と後項動詞（付ける）の対象（「感情、印象」）が同一であることを表す。また、前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化（「学校から」、「国民に」）を表す動詞であることを表す。

〈特徴 1〉

語義 1 の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」と「1.5 自然物及び自然現象」を除き、特にその制限が見られないように思われる。

- (19) 赤と白の 2 色のデージーを、正面から向かって左側のコーナーに植えつける。(小黒晃監修『ベランダでも楽しめる季節』、2004)

例 (19) の語義 1 では、「主体 (人間) が対象 (2 色のデージー) を植えるという手段で、対象 (2 色のデージー) を場所 (左側のコーナーに) に付ける (埋める／刻みつける)」ということを表し、「デージー」は「1.5 自然物及び自然現象」の「自然、植物」である。植える「動作対象＋ヲ」が明記されている。

語義 2 の共起名詞は、「1.3 人間活動-精神及び行為」である。例 (20) -例 (22) の語義 2 のように、「1.3 人間活動-精神及び行為」を用いる共起名詞 (39.42%) が一番多く使われる。

- (20) 三カ月にわたって富と人的資源を蕩尽し、自国民の心に国粹主義的、民族主義的な憎悪を植えつけるはずだ。(鈴木主税訳『第二次世界大戦はこうして始まった』、1995)
- (21) エッセンスは、近代の終わりについてその予感を煽りたて、同時代人に対して不安を植えつけること、ここにあったのではありません。(山之内靖『心のケア』を再考する』、2003)
- (22) この呪文は、目標に恐怖心を植えつける効果を持ちます。(清松みゆき『ソード・ワールド RPG ベーシック』、2004)

例 (20) -例 (22) の語義 2 では、「主体 (人間) が対象 (憎悪、不安、恐怖心) を植えるという手段で、対象 (憎悪、不安、恐怖心) を場所 (自国民の心、同時代人、目標) に付ける (刻みつける)」ということを表す。

例（20）-例（22）の語義 2 では、共起する名詞は「憎悪、不安、恐怖心」は「1.3 人間活動-精神及び行為」の「活動、心」である。刻みつける「活動、心+ヲ」が明記されている。

例（20）の語義 2 は、例（19）の語義 1 と同様に「内部へ移動する」行為を前提とする行為であり、語義 1 の「主体（人間）が対象（2 色のデージー）を場所（正面）から（左側のコーナーの）内部へ植え付ける」から、語義 2 の「対象（憎悪）を場所（自国民の心）に付ける（刻みつける）」へと変化していく。

例（23）の語義 2 のように、「1.4 生産物及び道具」を用いる共起名詞（0.96%）が一番少なくて使われる。

（23）感情にとらわれることなく、一つでも確実な資料をもって客観的に日本像を植え付けることが結果的には韓国のためにもなるのである。（金鉉球『金教授の日本談義』、1997）

例（23）の語義 2 では、共起する名詞は「日本像」は「1.4 生産物及び道具」の「生産物、道具」である。植える「生産物、道具+ヲ」が明記されている。「思想・印象などを人の心に刻みつける」という意味を表す。

〈特徴 2〉

先行研究では記述されていないが、語義 2 の共起副詞は、様態副詞的成分と頻度副詞的成分と時間副詞的成分である。つまり、語義 2 は、様態副詞的成分と、頻度副詞的成分、時間副詞的成分と共起する。例えば、例（24）-例（26）の語義 2 では、それぞれ「しっかり」の様態副詞的成分、「また」の頻度副詞的成分、「早急に」の時間副詞的成分と共起することを表す。

（24）対局に負けたときは軽く受け流し、自分が勝ったときだけ相手にしっかり印象を植え付ける地道な仕事できていない場合には、リーダーが交代すれば再び業績は悪化してし

まうであろう (Yahoo!ブログ、2015)

(25) また、「思考の種」を植え付けることになります。(Yahoo!ブログ、2010)

(26) それは一つの集団陣営に屈して応分の寄与を果たしつつ身を守るという自覚を持たねばならないことを早急に国民の脳裏に植え付けることが肝要である、と考えていたとしても不思議ではない。(三根生久大『日本の敗北』、2002)

例(24) - 例(26)の語義2では、共起副詞の前後に来る名詞は「印象、思考の種、こと」で、「活動、心、関係」を表す名詞であることが確認できる。例(24)では、「相手にしっかりと印象を植え付ける」という行為の力の接触に勢い・強さを表す。例(25)では、「また思考の種を植え付ける」という行為の生起・存在が再度のものであることを表す。例(26)では、「自覚を持たねばならないことを早急に国民の脳裏に植え付ける」という行為の起動・取り掛かりまでの所要時間量がわずかであることを表す。

先行研究では記述されていないが、例(24) - 例(26)の以外に、「植え付ける」の語義2は、「友人の失敗をひそかに喜ぶような歪んだ競争心を植え付ける」、「彼らの理念を徹底的に植え付ける」、「ブランドの世界観を効率的に顧客に植え付ける」、「教師は熱心にこの精神を日本に植え付ける」などのように、「植え付ける」の語義2は、様態副詞的成分と、頻度副詞的成分、時間副詞的成分と共起する。

以上、語義2の特徴を考察した。本節の考察をまとめると、次のようになる。

(一) 語義2の前項動詞(植える)の対象と後項動詞(付ける)の対象が同一である用法と、前項動詞(植える)が働きかけ(移動の手段)を表す動詞で、後項動詞(付ける)が位置変化を表す動詞である用法がある。

(二) 語義2の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」と「1.5 自然

物及び自然現象」を除き、特にその制限が見られない。つまり、語義 2 は意味範疇が広いが、語義 1 と比べると、語義 2 は使用上の制約がやや多いことを推測できる。

(三) 語義 2 は、様態副詞的成分と、頻度副詞的成分、時間副詞的成分と共起する。

6. まとめと指導への提言

本稿では複合動詞「植え付ける」を考察した。考察の際に、「植え付ける」の 2 つの語義と、それぞれの共起関係（共起名詞、共起副詞）も加えて、2 つの語義の使用実態と用法の特徴を考察し分析した。この 2 つの語義とそれぞれの用法は次に示す特徴がある。

(一) 語義 1

- ① 語義 1 は、1) 前項動詞（植える）の対象と後項動詞（付ける）の対象が同一である用法と、2) 前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化を表す動詞である用法がある。
- ② 語義 1 の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」を除き、特にその制限が見られない。また、語義 1 は、様態副詞的成分と、時間副詞的成分と共起する。

(二) 語義 2

- ① 語義 2 は、1) 前項動詞（植える）の対象と後項動詞（付ける）の対象が同一である用法と、2) 前項動詞（植える）が働きかけ（移動の手段）を表す動詞で、後項動詞（付ける）が位置変化を表す動詞である用法がある。
- ② 語義 2 の共起名詞は、「1.2 人類活動的主体」と「1.5 自然物及び自然現象」を除き、特にその制限が見られない。また、語義 2 は、様態副詞的成分と、頻度副詞的成分、時間副詞的成分と共起する。本稿の最後に、以上の考察結果に基づいて、「植え付ける」の中上級の作文や文法の指導について次の 2 点を提言する。

まず、「植え付ける」の語義が多いため、学習者が使いこなせな

い可能性が高い。指導する際に、1)「植え付ける」は「他動詞＋他動詞」から構成され「他動詞」として働き、主に「ヲ格」を使用すること、また 2) 前項動詞「植える」と後項動詞「付ける」が両方ともに具体的な意味を示す複合動詞であることを、より明確に説明する必要があると思われる。

次に、指導する際に「植えて対象を内部へ付ける（埋める）」（「対象の位置変化移動」）という基本語義（語義 1）を理解してもらうために、「彼がキャベツの苗を野菜畑に植え付ける」、「彼は他の容器に大根の根を植え付ける」、「彼が鉢植えを庭に植えつける」、「彼が果物を庭に植え付ける」などの用例を挙げながら、その共起名詞がそれぞれ「自然、植物」を表す名詞であることを説明すると効果的であると考えられる。

一方、「植え付ける」の拡張語義（語義 2）を説明する必要がある。例えば、「対象（思想・印象など）を場所（人の心）に付ける（刻みつける）」（語義 2）を説明する際に、「公德心を国民に植えつける」、「彼の心に嫉妬の芽を植えつける」、「自治体に経営感覚を植えつける」などの用例を挙げながら、その共起名詞が「活動、心」を説明すると理解しやすいと思われる。

中上級の日本語学習者に「植えつける」などの多義複合動詞をレポートや卒業專題（例えば、「複合動詞」の教案や教材作製）などに活用してもらう必要も考えている。

7. 今後の研究課題

語義 1 から語義 2 の「植えつける」は「植える」の意味が抽象化し、目標となる状態に到達するために、反復的に「つける」行為を行うという点で共通している。「植えつける」の前項動詞「植える」は移動の様態を表し、後項動詞「つける」は空間移動を表す。複合動詞「植えつける」の語義は、語義 1 の「場所の中へ植える」（具体的空間）から、語義 2 の「思想・印象などを人の心に刻みつける」（抽象的空間）へと変わっていく。

以上の考察から、「植えつける」の意味と統語的特徴としては、「ヲ格」を伴う場合、「ある場所にモノを植える」を表すが、「主体が思想・印象などを人の心に刻みつける」という意味にまで拡張される。本稿で考察した「植えつける」は主に「ある場所にモノを植える」という「対象への接着・密着」の意味を表すが、同じく「対象への接着・密着」の意味を表す複合動詞「巻きつける」や「塗りつける」との意味的差異（共通点と相違点）に関しては、今後の研究課題に譲りたい。

また、台湾で使用されている教科書における複合動詞の実態と問題点、日本語学習者の作文における複合動詞の誤用例や習得研究を考察し、類似した複合動詞の比較を通してその練習帖を作成し日本語教育への応用と実践を試みる必要も考えているが、今後の研究課題に譲りたい。

参考文献

- 青木博史（2012）「クル型複合動詞の史的展開—歴史的観点から見た統語的複合動詞—」青木博史ら（編）『日本語文法史研究 1』、東京：ひつじ書房、pp. 189-210
- 青木博史（2013）「複合動詞の歴史的変化」影山太郎（編）『複合動詞の最先端 謎の解明に向けて』、東京：ひつじ書房、pp. 215-241
- 阿部裕（2013）「古代日本語における動詞接続「トリー」の様相」影山太郎（編）『複合動詞の最先端 謎の解明に向けて』、東京：ひつじ書房、pp. 243-269
- 家田章子（2005）「共起表現から見る『ノニ』文の用法」『日本語教育』25、日本語教育学会、pp. 38-46
- 石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』、東京：ひつじ書房
- 何志明（2010）『現代日本語における複合動詞の組み合わせ』、東京：笠間書院
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』、東京：ひつじ書房
- 影山太郎（2013）『複合動詞の最先端—謎の解明に向けて』東京：ひ

つじ書房

- 金田一春彦 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』、東京：むぎ書房
- 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』、東京：大修館書店
- 国広哲弥 (1994) 「認知的多義一現象素の提唱」『言語研究』106、日本言語学学会、pp. 23-43
- 国広哲弥 (2006) 『日本語の多義動詞——理想の国語辞典 II』、東京：大修館書店
- 佐久間鼎 (1966) 『現代日本語の表現と語法』 東京：恒星社厚生閣
- 申亜敏・望月啓子 (2009) 「中国語の結果複合動詞—日本語の結果複合動詞・英語の結果構文との比較から—」小野尚之 (編) 『結果構文のタイポロジー』、東京：ひつじ書房、pp. 407-450
- 新村出 (2018) 『広辞苑 (第七版)』、東京：岩波書店
- 砂川有里子 (2011) 「日本語教育へのコーパスの活用に向けて」『日本語教育』150、日本語教育学会、pp. 4-18
- 曹紅セン、仁科喜久子 (2006) 「中国人学習者の作文誤用例から見る共起表現の習得及び教育への提言：名詞と形容詞及び形容動詞の共起表現について」『日本語教育』130、日本語教育学会、pp. 70-79
- 田野村忠温 (2010) 「日本語コーパスとコロケーション：辞書記述への応用の可能性」『言語研究』138、日本言語学学会、pp. 1-23
- 玉岡賀津雄・初相娟 (2013) 「中国人日本語学習者の語彙的複合動詞の習得に影響する要因」影山太郎 (編) 『複合動詞の最先端 謎の解明に向けて』、東京：ひつじ書房、pp. 413-430
- 沈力 (2013) 「結果複合動詞に関する日中対照研究」影山太郎 (編) 『複合動詞の最先端 謎の解明に向けて』、東京：ひつじ書房、pp. 375-411
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』、東京：くろしお出版
- 長谷部郁子 (2013) 「複合動詞と2種類動詞のアスペクト」影山太郎 (編) 『複合動詞の最先端 謎の解明に向けて』pp. 75-108、東京：ひつじ書房
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』、東京：ひつじ書房

- 松田文子 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究-認知意味論による意味分析を通して』、東京：ひつじ書房
- 松本曜 (2003) 『シリーズ認知言語学入門第3巻 認知意味論』、東京：大修館
- 三好裕子 (2011) 「共起表現による日本語中級動詞の指導方法の検討：動詞と共起する語のカテゴリー化を促す指導の有効性とその検証」『日本語教育』150、日本語教育学会、pp.101-115
- 村田年 (2016) 「BCCWJ を用いた複合動詞使用頻度調査表の改訂：22 後項動詞を指標として」『日本語と日本語教育』44、日本語・日本文化教育センター、pp.115-131
- 榎山洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を総括するモデルと比喻」山梨正明(編) 『認知言語学論考』1、東京：ひつじ書房、pp.29-58
- 榎山洋介・深山智 (2003) 「第3章意味の拡張」松本曜(編) 『認知意味論』、東京：大修館書店、pp.73-134
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語 意味と使い方』、東京：角川書店
- 山田進 (2007) 「コロケーションの記述と名詞の意味分類」『日本語学』26、東京：明治書院、pp.48-57
- 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語』、東京：ひつじ書房
- 姚新宇、菅谷奈津恵 (2017) 「中国人日本語学習者による動詞コロケーションの習得—明示的帰納法と暗示的帰納法の比較を中心に—」『国際文化研究』23、東北大学大学院国際文化研究科、pp1-14
- 劉怡伶 (2018) 『現代日本語の副詞的成分：形容詞連用形と動詞「て」形を中心に』、台湾台北：致良出版社

インターネット・Web ページ類

- 『大辞林』(第三版) <https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdjj>
(2019年1月15日検索)
- 『デジタル大辞泉』
<https://japanknowledge.com/contents/daijisen/index.html>

(2019 年 1 月 15 日 検索)

『複合動詞レキシコン』 <http://V.Vlexicon.ninjal.ac.jp/> (2019 年 1 月 15 日 検索)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/ (2019 年 1 月 15 日 検索)

『分類語彙表増補改訂版』

http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/goihyo.html (2019 年 1 月 15 日 検索)

『台湾多国語学習者コーパス』

<http://corpora.flld.ncku.edu.tw/index.pl> (2019 年 1 月 1 日 ~ 1 月 30 日 検索)

『国立国語研究の NBL 検索システム』(Web データに基づく複合動詞
用例データベース) <https://csd.ninjal.ac.jp/comp/index.php>
(2019 年 1 月 1 日 ~ 1 月 30 日 検索)